

埼玉県 様

文書管理システムを活用し全庁ナレッジの基盤を強化



「ADWORLD 文書管理システム」の利用風景

首都圏の立地に、約722万人の県民を擁する埼玉県。充実した交通網と、豊かな自然に恵まれた住みやすい環境で知られています。その行政を担う埼玉県庁は、県民1万人当たりの県職員数が11.5人と、全国平均の約半分です。少ない人数で効率的に行政を運営し、最小費用で最大効果をあげる「最小・最強の県庁」をめざしています。

本事例のポイント

課題

サーバー更改を契機に、文書管理システムの機能強化と公文書管理法への対応を図りたかった

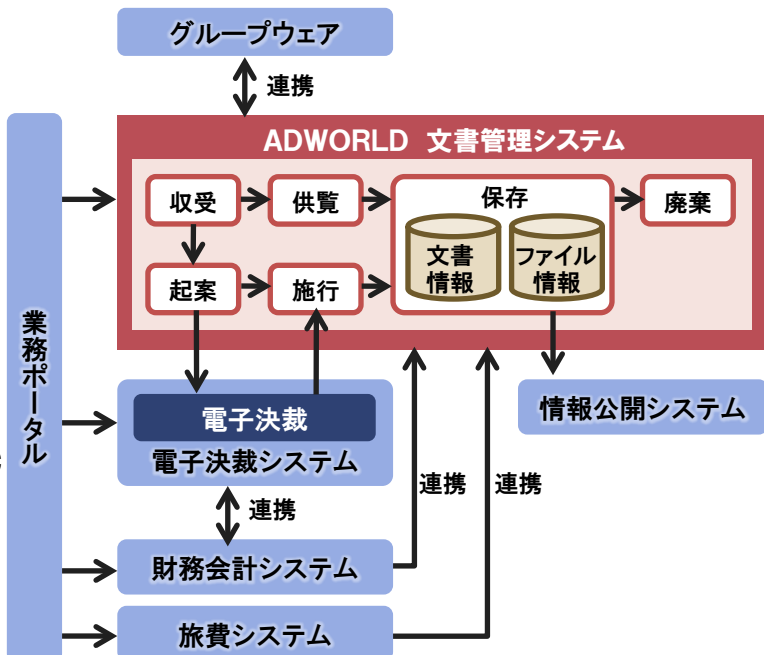
解決

信頼性と操作性の継承、機能強化を両立できる「ADWORLD 文書管理システム」を選定

効果

公文書管理法への対応と、検索性能や回覧性の向上で全庁ナレッジの利活用基盤を強化

埼玉県様に導入されたシステムの概要



お客様プロフィール



埼玉県
総務部
総務事務センター 所長
大野 明男 氏



埼玉県
総務部
総務事務センター 副所長
中村 達徳 氏



埼玉県
総務部
総務事務センター 主幹
宮寺 哲也 氏



埼玉県
総務部
総務事務センター 主査
京谷 陽一 氏



埼玉県

所在地 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
人口 7,222,977人(2014年2月1日現在)
世帯数 2,908,915世帯(2014年2月1日現在)
職員数 62,430名(2012年4月1日現在)
URL <http://www.pref.saitama.lg.jp/>

お客様インタビューを裏面に掲載しています

サーバー環境とOSの刷新に合わせ 文書管理システムを見直す

「埼玉県が長年取り組んでいるのが、県政の効率化と県民サービス向上・充実に向けた“電子県庁”の構築です。われわれ総務事務センターは、電子県庁の基盤となる、全庁レベルの文書管理/財務会計/旅費システム、総務事務システムの管理運営を担っています」と総務部総務事務センター 所長の**大野 明男**氏は、同センターの役割について語ります。

埼玉県は2003年6月、日立をベンダーとしてユーザー数約13,000名の文書管理システムを構築しました。2014年1月には、そのサーバー環境とOSを刷新するタイミングでプログラムの強化も図り、あらためて日立の「ADWORLD 文書管理システム」を採用しました。

「文書データは10年以上にわたって蓄積してきた大切なものなので、継承しなくてはなりません。また、職員へのアンケート結果から、強化したいさまざまな機能や公文書管理法への対応を図るには、日立さんのシステムが最適だと判断しました」と、総務事務センター 主幹の**宮寺 哲也**氏は説明します。

同センターでは、所管課である文書課も交えた要件定義を1年かけて行い、要求水準を満たした「ADWORLD 文書管理システム」を選定しました。約半年間という限られた期間内で、データ移行や動作確認を行い、予定通りのスケジュールで本稼働を果たしました。

操作性が向上し 検索機能強化が好評

新システムの効果について、総務事務センター 副所長の**中村 達徳**氏は、「処理スピードが大幅に向上しました。プログラムの高速化と『BladeSymphony BS500』^{ブレードシンフォニー}の処理性能との相乗効果だと思えます。以前のように、起案から登録までに感じた待ち時間がなくなり、業務効率の向上に貢献しています」と語ります。

総務事務センター 主査の**京谷 陽一**氏は、「画面がとても見やすくなり、ユーザーインターフェースも改良されました。さまざまな機能が、直感的に操作できるようになりました。検索した文書をメールで送る際も、ドラッグ&ドロップ操作で、簡単にファイルを添付できるようになったのはうれしいですね」と、操作性の向上を高く評価します。

続いて、**宮寺**氏は、職員の皆さまから特に喜ばれた「検索機能の強化」について「新しい検索機能と、処理性能のアップには非常に満足しています。長年にわたって蓄積された文書資産、他課の業務ノウハウやアイデアなどを、今まで以上にすばやく探し出し、再活用が容易になりました。この環境が整備されたことで、本当の意味でのナレッジマネジメントの基盤が整ったと、大きな手応えを感じています。われわれが評価するこれらの機能のほとんどは、ADWORLD 文書管理システムの標準機能として提供されていました。パッケージ製品としても、非常に優れていると評価できます」と語ります。

公文書管理法への対応と ナレッジマネジメントの実現へ

職員向けのグループウェアとも連携しました。これにより、トップページで回覧文書をプッシュ式に表示できるようになりました。利便性と効率性が大きく高まったといえます。

「今まで、確認や承認が必要な文書は、一度、文書管理システムにログインしてから階層をたどり、探し出す作業が必要でした。しかし新システムでは、業務ポータル上に各人向けの回覧文書が一覧表示され、そのまま閲覧が可能です。作業もれや遅延がなくなり、情報伝達のスピードが、非常に速くなりました。公文書管理法への対応機能も備わっています。住民の皆さまへの情報公開基盤として、運用性と信頼性がさらに増した点も、大きなメリットだと考えています」と**大野**氏は語ります。

今後の目標として総務事務センターの皆さまは、迅速な意思決定や、事務の効率化に向けたナレッジマネジメントの実現を挙げ「この文書管理システムのさらなる有効活用を、職員に啓発していきたい」と力強い決意を述べられました。その期待に応えるため、これからも日立は「ADWORLD 文書管理システム」の継続的な機能強化と、関連ソリューションの積極的な提案を行っていきます。

- 掲載団体への直接のお問い合わせはご遠慮願います。
- その他記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。



製品に関する詳細やお問い合わせは下記へ
ADWORLD 文書管理システム
http://www.hitachi.co.jp/app/adworld_bunso/